

“時空を超える” アジア人形劇フェスティバル

人形劇フェスタ 2013



十日の、長野原区民センター会場では、人形劇団どむならんの「てんぐとかつぱとかみなりどん」は、人

竜丘地区公演は、八月八日を皮切りに公民館大ホールで、ももも劇団(篠ノ井西小学校四年二組)のみんなが手作りの人形で、長野県に伝わる「竜の子太郎」の公演がありました。太郎をとりまくたくさんの登場人物が生き生きと表現されました。歌声も揃って感動的でした。

夜には時又ふれあいセンタで、げきだんはてなの「とびだせ!ブッターマン」の上演があり、九日はマラソン公演で朝から夕方まで連続で八つの劇団の公演がありました。

開演の際、進行の方が手作り人形を操り、子ども達の注目を浴びました。言葉と動きがマッチして一役、人気者でした。やはり大人が話す言葉よりも人形の発する言葉や、動き

表現が子ども達にとっては、すーっと目に入ってきて、人形の魅力や親しみを更に感じました。えぶろん座の「かえるちゃんのおねしょ」では、お誕生日のケーキの火を消すシーンがとても印象的で炎のリアルさを表現していました。コミカルな動

きで子ども達も、歓声を上げ楽しんでいました。ティーンアン一座はカンボジアの伝統芸能のスパエ・トム・大きい皮という意味で、現地では、舞台奥にココナツの殻を燃やして、影を映し出して物語を演じる壮大な影絵芝居です。上演前には必ず儀式を行い神々と芸能の師に祈りをささげる様です。今回も儀式後に上演されました。太鼓とリズムに合わせて影絵が、光の奥から飛び出てくるシーンは3Dのような迫力でした。

十一日は、上川路公民館で、パネルジャム、グレゴの音楽一座の上演、二劇団は参加型の劇で、観客の皆さんが反応が良くとても楽しかった様です。

午後には駄科区民センターで、人形劇芝居燕屋の腹話術「ハローカンクロー」

今年も大好評の内に幕とりました。皆様ありがとうございました。

交流のきっかけは、東京大学教育学部の澤崎哲也君が、(飯田市での東京大学教育学部牧野ゼミで、飯田市のフィールドスタディで研究) 高年大学と大人の学校を事例研究し高齢者の社会貢献・健康づくり・コミュニケーションの場づくりの考察を卒業論文にまとめて

を頂けたと思っております。

をしているが、実質的には生徒の自主運営であり、学校の運営は運営委員が行い、クラブ活動はそれぞれのクラブで自主運営をしています。

踊りクラブの皆様にご指導頂き、本番には踊りの輪の中心の役割も果たす事が出来ました。この伝統ある駄科夏まつりが区民の皆様との交流の場として長く続けられる事を願っています。この夏まつりにご支援ご協力頂きましたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度は、自らを天才ではないと話しているが、すばらしい才能を選手が努力を続けたからこそ記録であり、努力の連続こそが彼の才能とも言えると思う。

今年度は、自らを天才ではないと話しているが、すばらしい才能を選手が努力を続けたからこそ記録であり、努力の連続こそが彼の才能とも言えると思う。

今年度は、自らを天才ではないと話しているが、すばらしい才能を選手が努力を続けたからこそ記録であり、努力の連続こそが彼の才能とも言えると思う。

真夏の祭典「人形劇」が今年も開催され、竜丘地区恒例の終日連続公演など、大いに盛り上がりしました。今年はアジア人形劇フェスタでも行われ、国際色豊かな公演となりました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,979人
男子 3,400人
女子 3,579人
世帯数 2,429戸
(25年8月末現在)

高齢者の『生きがい作り、地域の担い手、健康作り』を目指して

福井県鯖江市・高年大学と竜丘公民館・大人の学校の交流

七月二十二日同じ目的を持ち積極的な活動を展開している、福井県の鯖江市高年大学の方々二十七名と交流し、高齢化社会にどう地域に貢献でき、自分たちの生きがいを見つめ、生涯学習を求めていく機能とあり方について意見交換をしました。

交流のきっかけは、東京大学教育学部の澤崎哲也君が、(飯田市での東京大学教育学部牧野ゼミで、飯田市のフィールドスタディで研究) 高年大学と大人の学校を事例研究し高齢者の社会貢献・健康づくり・コミュニケーションの場づくりの考察を卒業論文にまとめて

を頂けたと思っております。

をしているが、実質的には生徒の自主運営であり、学校の運営は運営委員が行い、クラブ活動はそれぞれのクラブで自主運営をしています。

今年度は、自らを天才ではないと話しているが、すばらしい才能を選手が努力を続けたからこそ記録であり、努力の連続こそが彼の才能とも言えると思う。

今年度は、自らを天才ではないと話しているが、すばらしい才能を選手が努力を続けたからこそ記録であり、努力の連続こそが彼の才能とも言えると思う。

公民館活動をフイリピンに ーレガスピ市から研修生ー

飯田市の公民館活動を、フイリピン・レガスピ市に伝える活動に飯田市が取り組んでおり、現地に公民館を創る計画に協力しています。今年新築された駄科公民館の建設活動の視察にレガスピ市の方々が訪れました。



「レガスピ市のみなさんを迎えて」
駄科分館主事 加藤 守孝

去る八月二十九日にJICAの「草の根技術協力事業」の一環で、フイリピン、レガスピ市の皆さんが、地元公民館建設と活動の視察の為に竜丘を訪れました。そこで、昨年度市民センター

を訪れ下平降司さんより鈴岡公園の歴史等の説明を受け、駄科を一望できる展望台から南アルプスと天竜川の眺望を楽しみました。そして今回の目的でもある地域の公民館として、新

が完成した駄科区を視察してもらうこととなりました。レガスピ市からは、行政職員と村長さんの計四名（農業担当者、ソーシャルワーカー、建築士とさまざまな立場の方）がおみえになり、北林駄科区長さんの経緯や、利用状況等の説明を熱心に聴かれました。その後、鈴岡公園を



の説明と共に正月飾りの幣束の切り方を体験しました。視察団の皆様からは、「地域住民が参加し築き上げる公民館の姿を目の当たりにして、大変に勉強になった」ととてもうれしい評価をいただきました。今回視察に同行して、公民館活動の重要性と素晴らしさを改めて知ることができ、大変な刺激となりました。今後もレガスピ市の皆さんの活動を見守ると共に、より一層地域の公民館が充実することを望みます。

リニア時代に 地域づくりを語る

七月十八日に竜丘公民館で市政懇談会が行われ、住民約百十人が参加しました。冒頭に牧野市長から市政経営の方向とリニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を見据えた地域づくりを中心に話を聞いた後、地区の課題や市政全般にわたり、参加者と意見を交わしました。

意見交換では、竜丘小学校の先生から、六年生が授業で、リニアが開通すると地域がどう変わるのかなどを学び、飯田の良さを活かしたまちづくりについて考えた報告がありました。子どもたちは、「自然が豊かだととてもいいところだと思ってる」という意見や、運賃が高いことや、環境が破壊されることなどからリニアは必要ないと考える児童もいると報告がありました。これを受け、市からは、学習への感謝とリニアがもたらす課題について「環境影響評価」において、問題の把握と対応を調べていると回答がありました。

また、成人式の元実行委員長から、若者が飯田を離れてしまうのは、「雇用の場が少ない」「若者が集まる場所が少ない」という理由からで、リニア中央新幹線が開通すると、若者が増えるかも知れないが、逆に出て行ってしまふかもしれないと発言がありました。これに対し、市からは、「働く場所」については、市政方針の大きな柱のひとつで、新しい産業をいかに育成するかを考えている。「若者が集まる場所」について、都会

の模倣では飯田は埋もれてしまふ。飯田らしいまちづくりが必要で、若い皆さんの柔軟な発想に期待したいと回答がありました。

竜丘には昔、発電所があり電気が利用組合が設立されていた。自然エネルギーの活用に向けた

れてしまうのは、「雇用の場が少ない」「若者が集まる場所が少ない」という理由からで、リニア中央新幹線が開通すると、若者が増えるかも知れないが、逆に出て行ってしまふかもしれないと発言がありました。これに対し、市からは、「働く場所」については、市政方針の大きな柱のひとつで、新しい産業をいかに育成するかを考えている。「若者が集まる場所」について、都会

様々な立場の方と、リニア時代に向けて取り組むべき課題などについて活発に意見交換が行われました。

地震防災訓練を通して

九月一日(日)午前八時より、飯田市地震防災訓練に合せて竜丘地区地震防災訓練を行いました。午前八時に巨大地震が発生した想定で、各常会・各区と竜丘地区災害対策本部の設置状況や避難状況などの伝達訓練を行いました。今年度は、全体で二九四九名の住民の方の参加がありました。

問題

「ガソリンスタンドは、火にも地震にも強い施設で、阪神淡路大震災では、実際に猛烈な火災がガソリンスタンドで燃え止まりとなった」
○か×か

短冊に願いをこめて 七夕お楽しみ会開催

去る七月十三日に、竜丘公民館図書館に於いて「七夕お楽しみ会」が行なわれました。絵本の読み聞かせから始まり、ジャンボ紙芝居、続いて七夕作りが行なわれました。本の読み聞かせ、ジャンボ紙芝居では、図書館の先生方が交代で読み、参加者の親子・子どもたちは、静かに物語を見て、聞き入っていました。その後、七夕作りが行なわれました。近頃では、家で七夕を飾る事があまりなくなってきました。子どもたちに多く体験をしてもらおうと、大きい七夕と小さい七夕を作りました。大きい七夕は、図書館に飾り、小さい七夕は家に飾ってもらう様に作りました。小学生の子どもにも感想を聞いて

みると「いろいろ七夕のことが出来、この様な体験があまりないので、大事にしたいです。楽しくできました。」と答えてくれました。雰囲気は、みんなが和気あいあいと、楽しそうに短冊に願い事を書いて飾ったりと、あたたかい感じが伝わってきました。

「七夕まつり」も今年度で、十二年目になります。毎年、子どもたちは楽しみに参加してきています。又、一緒に参加している家の方々も楽しく参加してくれてい



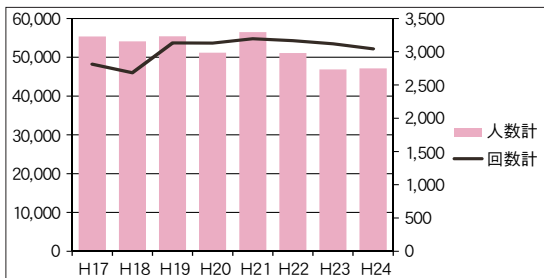
竜丘公民館整備作業と利用状況

竜丘公民館が平成十三年三月に竣工してから十三年目に入り地区の皆様には親しみと愛着がより大きくなってくるのではないでしようか。

竜丘公民館も十三年目を迎えるメンテナンスが必要になってきます。年々利用者が減っています。

利用者として地域自治会・公民館・大人の学校が多いと利用者の五%が地区外の利用者です。地区外の利用者のお話を聞く

年度	回数計	人数計	人／回
H17	2,811	55,337	19.7
H18	2,685	54,108	20.2
H19	3,132	55,392	17.7
H20	3,130	51,194	16.4
H21	3,195	56,485	17.7
H22	3,167	51,102	16.1
H23	3,120	46,839	15.0
H24	3,044	47,124	15.5



また、成人式の元実行委員長から、若者が飯田を離れてしまふのは、「雇用の場が少ない」「若者が集まる場所が少ない」という理由からで、リニア中央新幹線が開通すると、若者が増えるかも知れないが、逆に出て行ってしまふかもしれないと発言がありました。これに対し、市からは、「働く場所」については、市政方針の大きな柱のひとつで、新しい産業をいかに育成するかを考えている。「若者が集まる場所」について、都会



また、県内初の試みとして、「シェイクアウト訓練」の実施(その場で頭を守りながら身の安全を図る行動を取る)をしましたが、連絡が行き届いておらず一部で

